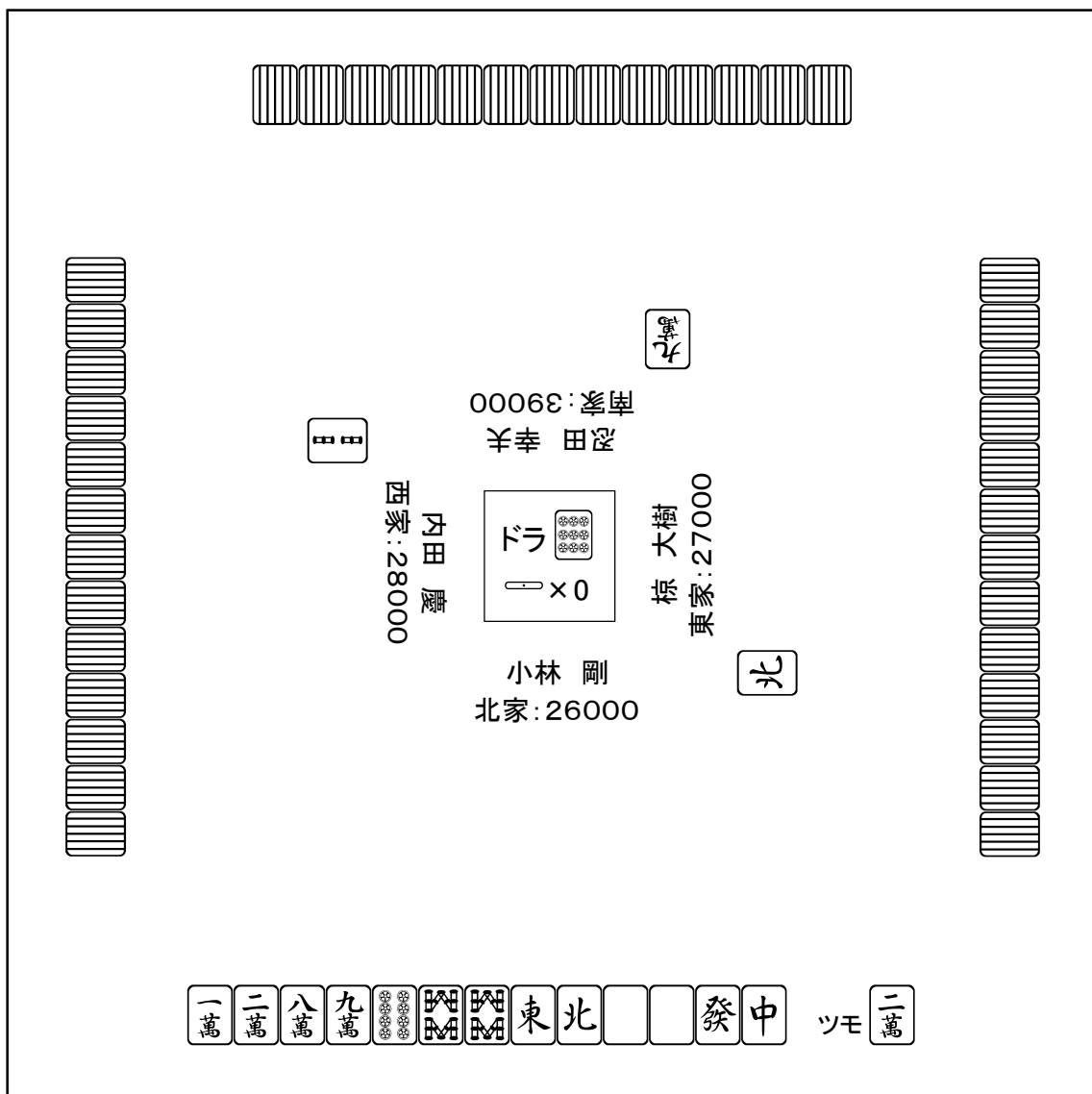


# 東2局 その1

# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 1巡目



前局の親かぶりでラス目になったとはいえ、ツモったのがトータルラス目の忍田なら、自分(小林)はこの半荘で2着になれば、ほぼ優勝できる。2着とは2000点差なので、まだまだこれから。

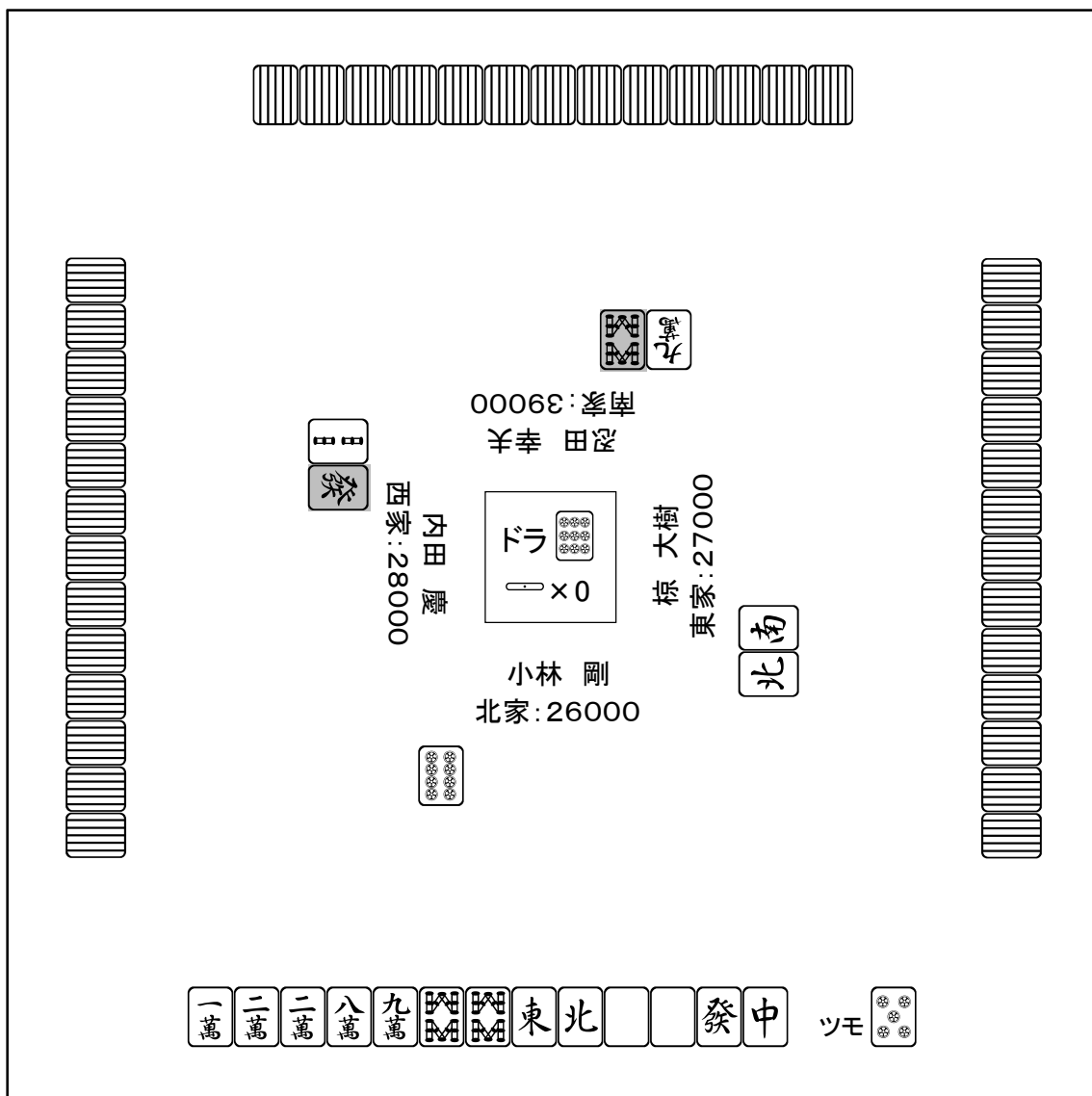
東家の棕は、オタ風の北と普通の切り出し。南家の忍田も、端牌の九と普通の切り出し。

西家の内田は、十切り。これは十が一番いらぬほど良い手なのか、他の種類のホンイツなども見た様子見(字牌を絞りつつ、重ねれば自分で使おうという狙い)なのか、この後の捨て牌(特に手出し牌)から判断することになる。

自分の手は、孤立した字牌が多くパツとしない配牌。しかし、第1ツモが二でトイツが3組となった。チートイツか、マンズのホンイツ、チャンタ、国士無双あたりが狙いとなりそうなところ。全ての可能性を残して、第1打は四。四はドラ表示牌ではあるが、ドラを引いたら残してトイツになることを期待する予定。

先ほど出た、北家の内田の「他の種類のホンイツなども見た様子見」と同じで、内田もこのような手になっているかも知れないということ。

# 2012-01 μカップ in アルバスタジオ 決勝 東2局その1 2巡目



東家の桐は、前巡に続いてオタ風の南手出しと、普通の進行。

南家の忍田は、2巡目にして中張牌の𠄎をツモ切り。良い手なのか、字牌を持った様子見なのか、この後の捨て牌から判断する。

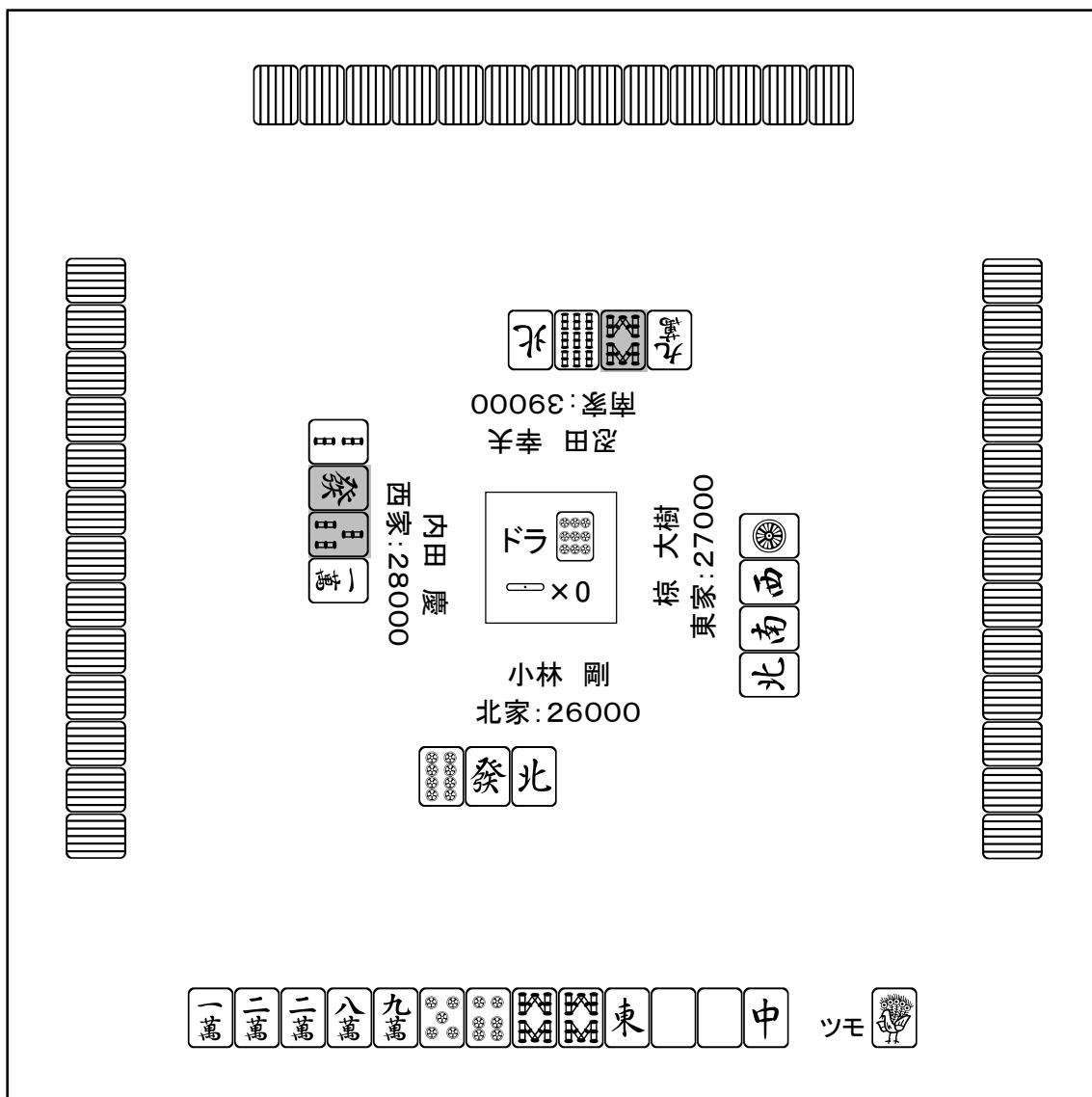
西家の内田が發のツモ切り。これで第1打の𠄎は様子見の一打ではなく、𠄎が最もいらなかった良い手である可能性が高くなった。

自分のツモは𠄎。国士無双やチャンタ狙いならツモ切りする牌である。しかし、西家の内田が早い手であるなら、のんびり国士無双を狙っても、内田のテンパイ後は通っていない中張牌でオりに回ることが多くなってしまふ。そこで、アガリは難しいかも知れないが𠄎を頼りに、普通の手かチートイツを作りに行く。もしかしたら、小林は最初から𠄎トイツのこの手なら、国士無双など見ないで普通のメンツ手を意識していたのかも知れない。

幸い北やトイツの𠄎など、比較的安全な牌は多く持っているので、他家の進行を助けないためにも發を合わせ打ちしておいた。



# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 4巡目



東家の棕は の手出し。1巡目からずっと端牌と字牌だけなので、まだ何とも言えない。

南家の忍田は を手出し。これが のターツ落としをしている途中でツモった牌(ツモ のときのツモ牌)なら、この は手牌に関係していなかったことになる(たまたま より の方が、安全度が高かったために先に が切られた)。

このような、ターツ落としやイツ落としの途中でツモって、手に残っていた牌を「偶然の手残り」という。基本的に後から手出しで出てくる牌は「それまで必要であったから手に残っていた可能性が高い」と読みを入れていくわけであるが、「偶然の手残り」は手牌に関連していないことも多いので、ターツ落としやイツ落としの次の手出し牌は、偶然の手残りの可能性があることを考慮して読む必要がある。

逆に、この が のターツ落としをしている途中でツモった牌ではなく、安全牌の を持ったままペンチャンを払ったものならば、それほど手が良くないため安全牌の を残して愚形のペンチャンを払い、より良い形を作りに行った可能性が高くなる。

残念ながら、この北が「偶然の手残り」なのか、そうでないかは、この瞬間は分からないのだが、両方の可能性を考慮しながら、この後の手出し牌で判断することになる。

正確に言うと、ターツ落としやトイツ落としがあったときに、落としているターツやトイツの2枚目(このケースなら四)が手出しされた瞬間に、ツモった牌を手牌のどこに入れたか見ておくと、偶然の手残りだったのかどうかの判断はできる(先ほどツモった牌が手出しされれば、それは偶然の手残り)。全てのツモ牌を手牌のどこに入れたかを見るのは、労力がかかりすぎて、少なくとも筆者(須藤)にはできない。ただ、偶然の手残りかどうかだけなら見る価値があるであろう。

また、余談ではあるが、捨て牌の手出しツモ切りの覚え方も人それぞれ。

筆者(須藤)の場合、丸暗記が苦手なため、手出し牌の意味を考えて別の情報に置き換えるという方法を使っている。手出しされた瞬間に「これはターツ落とし」「かなり前に四が出ていないのに、四が手から出てきたということは、四と振り替わったか？」という具合にである。そうすることで、その打牌の意味を一旦考えているので、後でその牌が手出しかツモ切りであったかを思い出しやすい。

人によっては、手出しツモ切りを「これは手出し」とだけ覚えておいて、考える必要が出た時に思い出すという方法を採用する人もいる(見ているのだから思い出せるとのこと、うらやましい限り)。

西家の内田は一萬を手出し。三や四より後に出たということは、一萬が手牌に必要だった可能性が高い。恐らく、一萬に関連した牌を持っているか、手役絡みであろう。

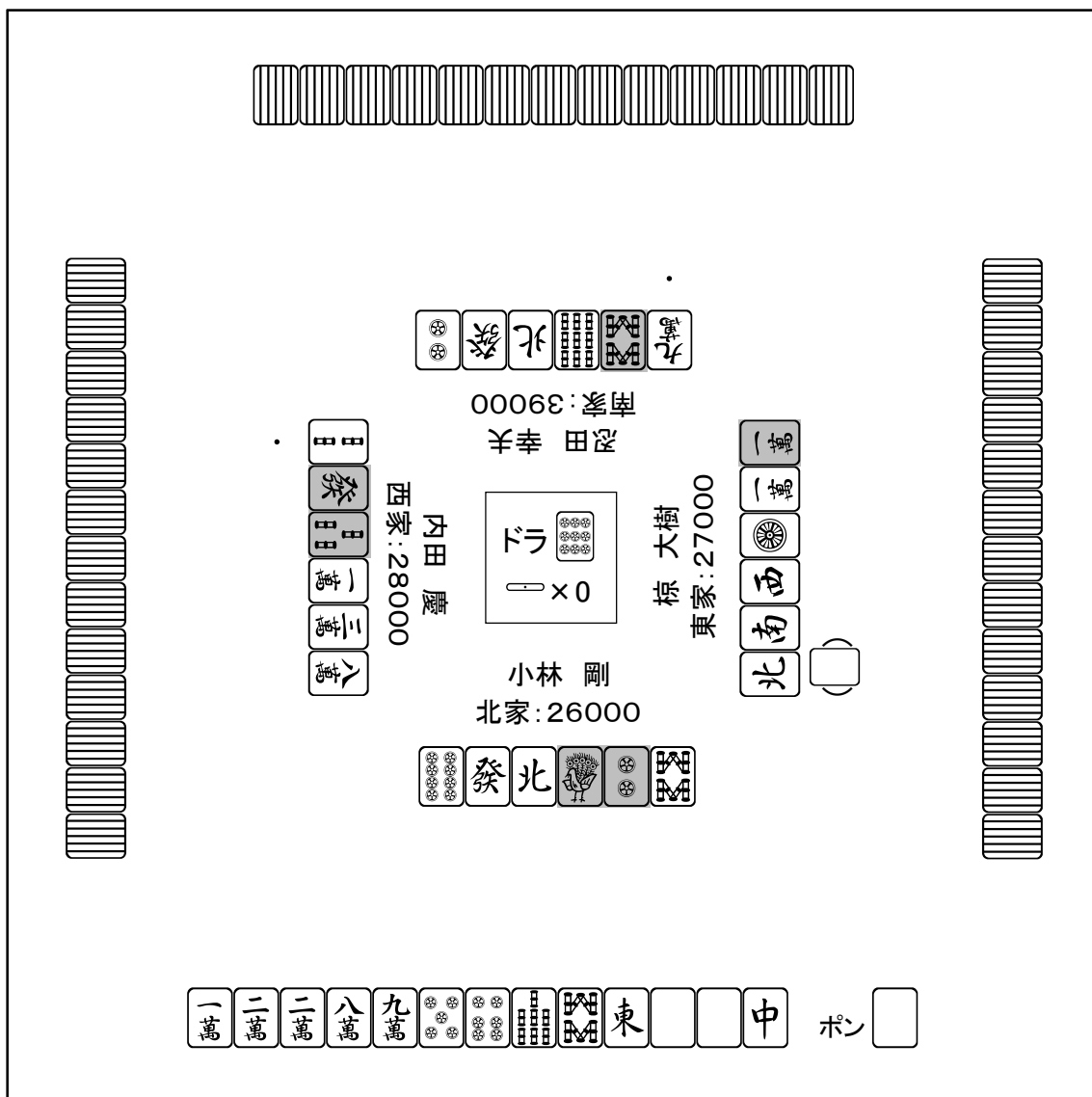
自分のツモは二で、これは手牌に必要ない。また生牌(シオンパイ・場に1枚も出ていない牌)の東や中も切り出すような手にもなっていない。よって二のツモ切り。







# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 7巡目



東家の椋から、生牌の  が切られた。前巡まで端牌の整理をしていた親であったが、手が整ってきたということか。

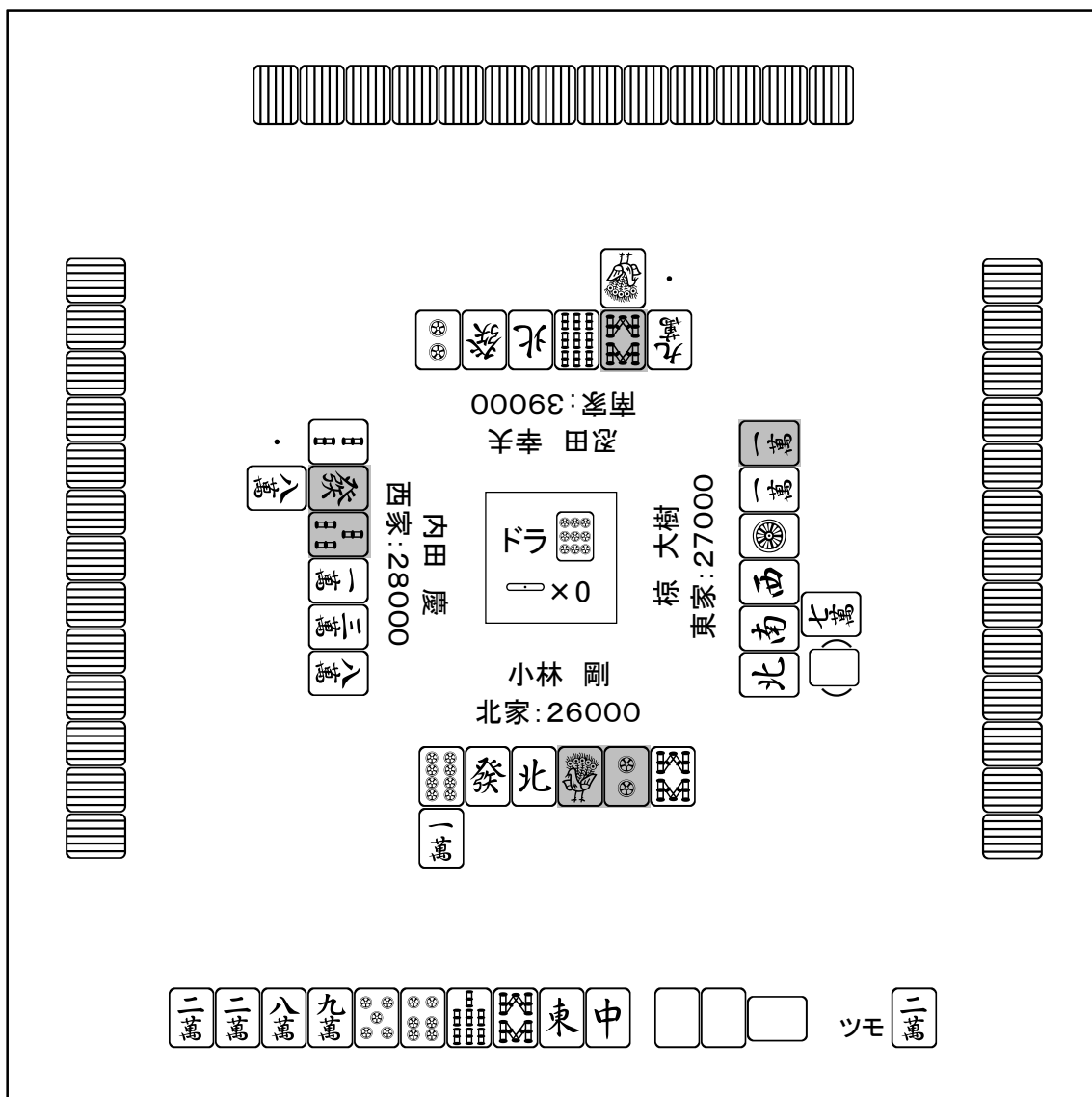
自分(小林)は、この  をポンして手を進めた。西家の内田や、親の椋の手が整ってきていることを考えると、安全牌は減らすことは怖い。しかし今局の捨て牌は全体的に端牌だらけで、安全牌ができにくい。それなら自らアガリに行く方がかえって失点になりにくいという判断か。

また、自分の1巡目に  を切つてあることで、プレッシャーをかけることもできる。最初からドラ側を捨てているということは、ドラの  を固めて持っていると思わせる効果もあるからである。

ここから、目一杯に手を広げるなら  か  を切つて、 の受け入れも残しておくところだが、ここで小林は  切り。 と  を切らないことで、字牌を絞りつつ、リーチがかかった際には数牌よりは通りやすい。そして重なれば得点アップのために利用しようという狙いである。これは、小林が仕掛けるときによく使う作戦で、大きな効果を挙げている。

南家と、西家はポンで飛ばされたので、この巡目の捨て牌は無し。そのため「・」となっている。

# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 8巡目



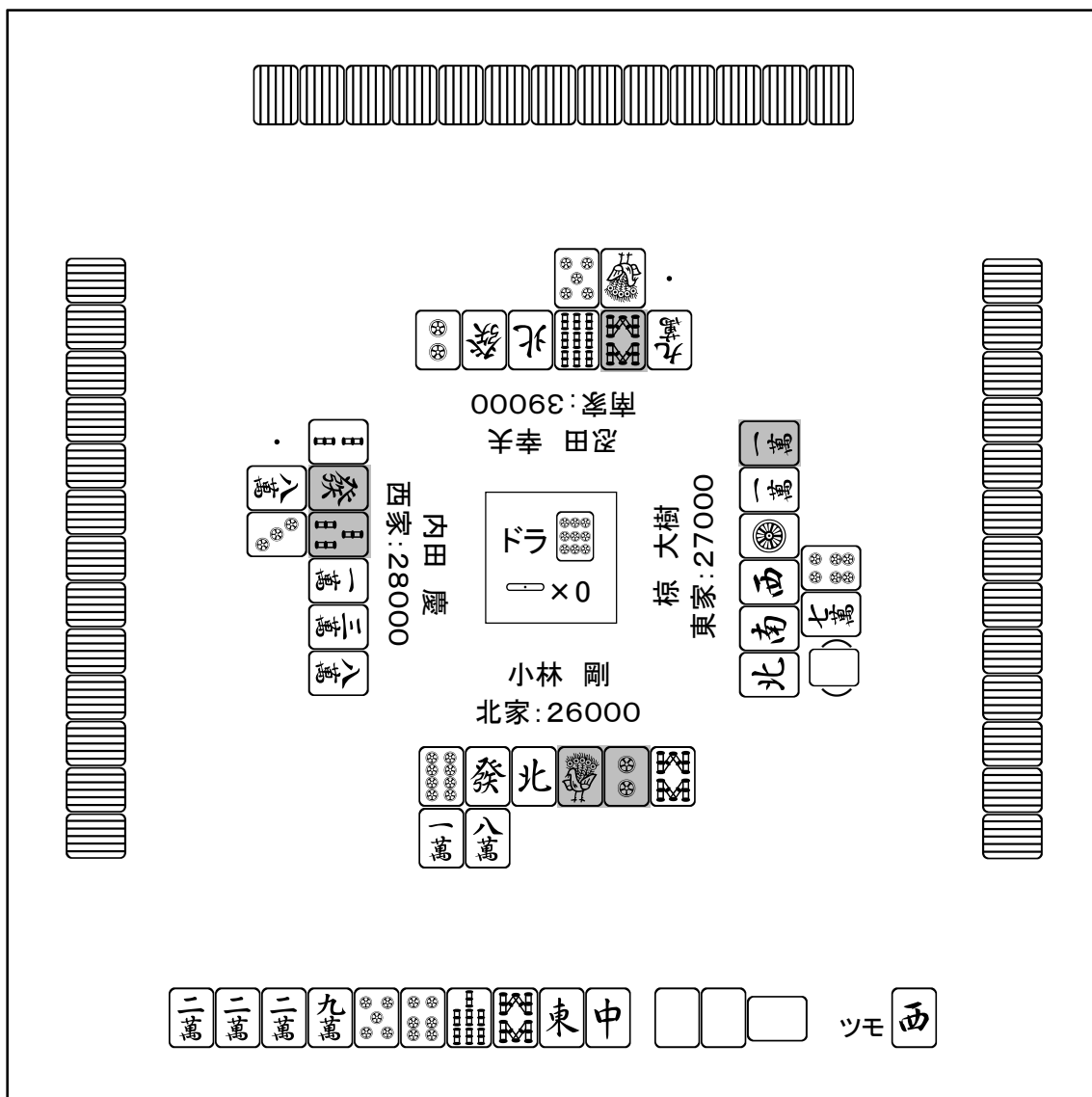
東家の椋は 手出しで、まだテンパイではないにしても手が進んでいそう。



南家の忍田は 手出し。 より後に出たので関連牌を持っている可能性が高い。


ここまで目立った捨て牌をしていた西家の内田だが、さらに 手出しでトイツ落としだったことが判明。カンチャンを外して、さらに雀頭も と振り替えてきた。これは よりも良い雀頭(もしくは同価値の雀頭)と振り替えた可能性が高い。良い雀頭とはドラか、もしくはピンズのホンイツに移行したか、雀頭+ターツ含みの複合形を残したか。トイツ落としの瞬間にテンパイである可能性は低く(ちょうど2枚目を捨てるときにテンパイする牌を引いた場合のみ)、あと1枚手出しされれば警戒といったところか。





そして、自分は雀頭候補だった が暗刻に。ここで か を切れば、次に手が進んだときに広いイーシャンテンにはなるが、小林はここでも字牌を切らなかつた。これは、手の内が数牌だらけになることを避けて、役牌を絞りつつ、愚形を処理したのであろう。そして、親と南家にいずれ切りにくくなりそうな、今出たばかりの2枚切れの を合わせ打った。

# 2012-01 μカップ in アルバスタジオ 決勝 東2局その1 9巡目

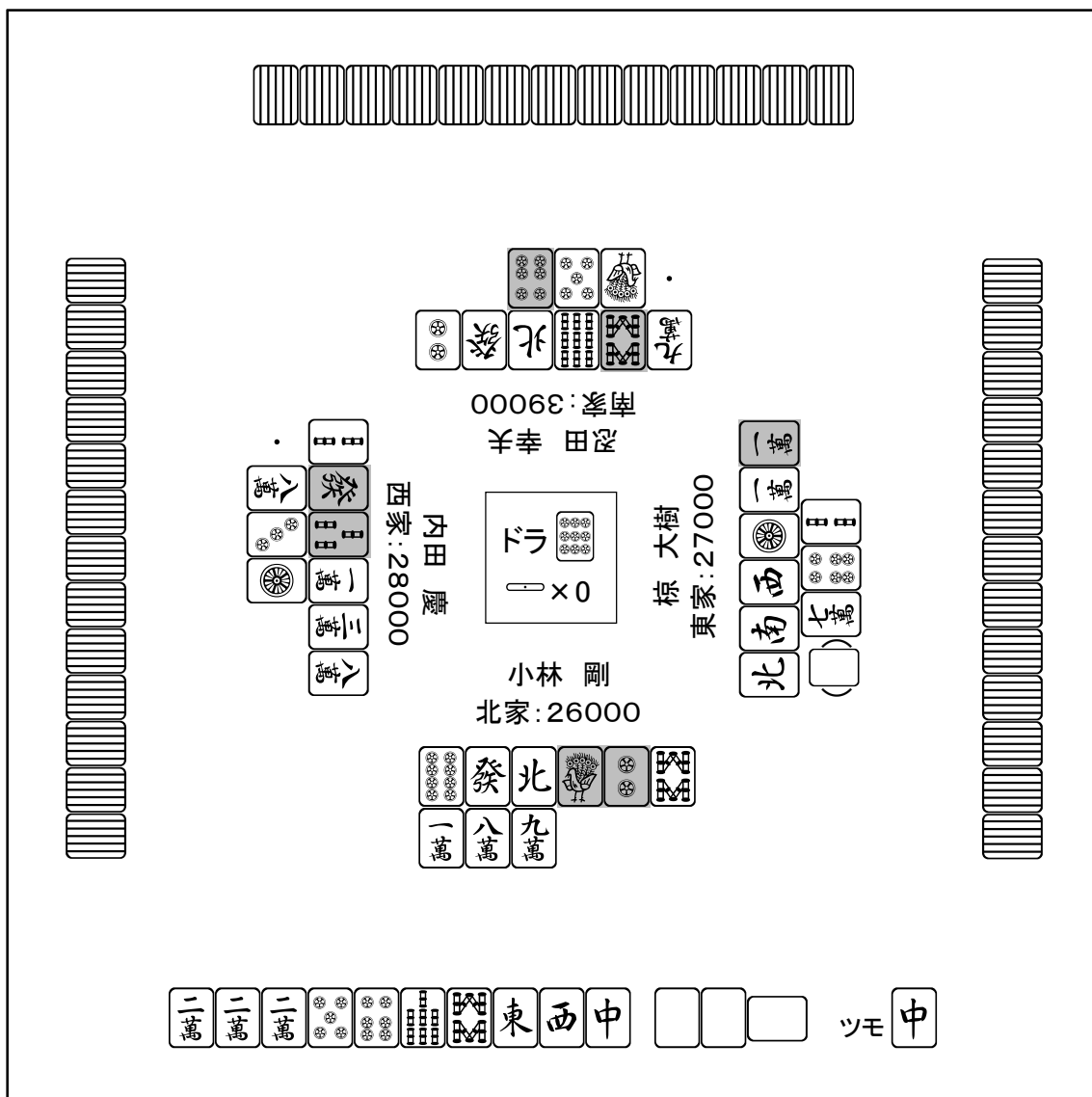


東家の桐、南家の忍田とも、、 と小林に通っていないピンズの中張牌を手出ししてきた。どちらもテンパイが入っていても不思議ではないが、まだテンパイではない可能性の方が高い。このくらいの微妙なところから警戒してしまうと、終盤に手詰まりを起こしてしまいやすい。仮にテンパイが入っているにしても、無スジが多すぎるためオリ切ることもしかないのだ。ある程度は自分の都合で手を進め、この後の動向に気をつける感じで打っていく。

西家の内田は、ついに 手出しとピンズが余ってきた。ここはテンパイの可能性も十分あり、もしかしたらホンイツの可能性まである。

ここに自分がツモったのが1枚切れの。これは西家の内田の役牌になっている。本当にホンイツが入っているのかは分からないが、万が一ホンイツに振り込んでしまうと失点が大きくなってしまう。できることなら、忍田の現物でもあり、 も3枚切れのため他家にも安全度の高い は残しておきたいところだが、内田に対して様子見の意味も込めて、念のために安全度の高い 切りとした。

# 2012-01 μカップ in アルバスタジオ 決勝 東2局その1 10巡目



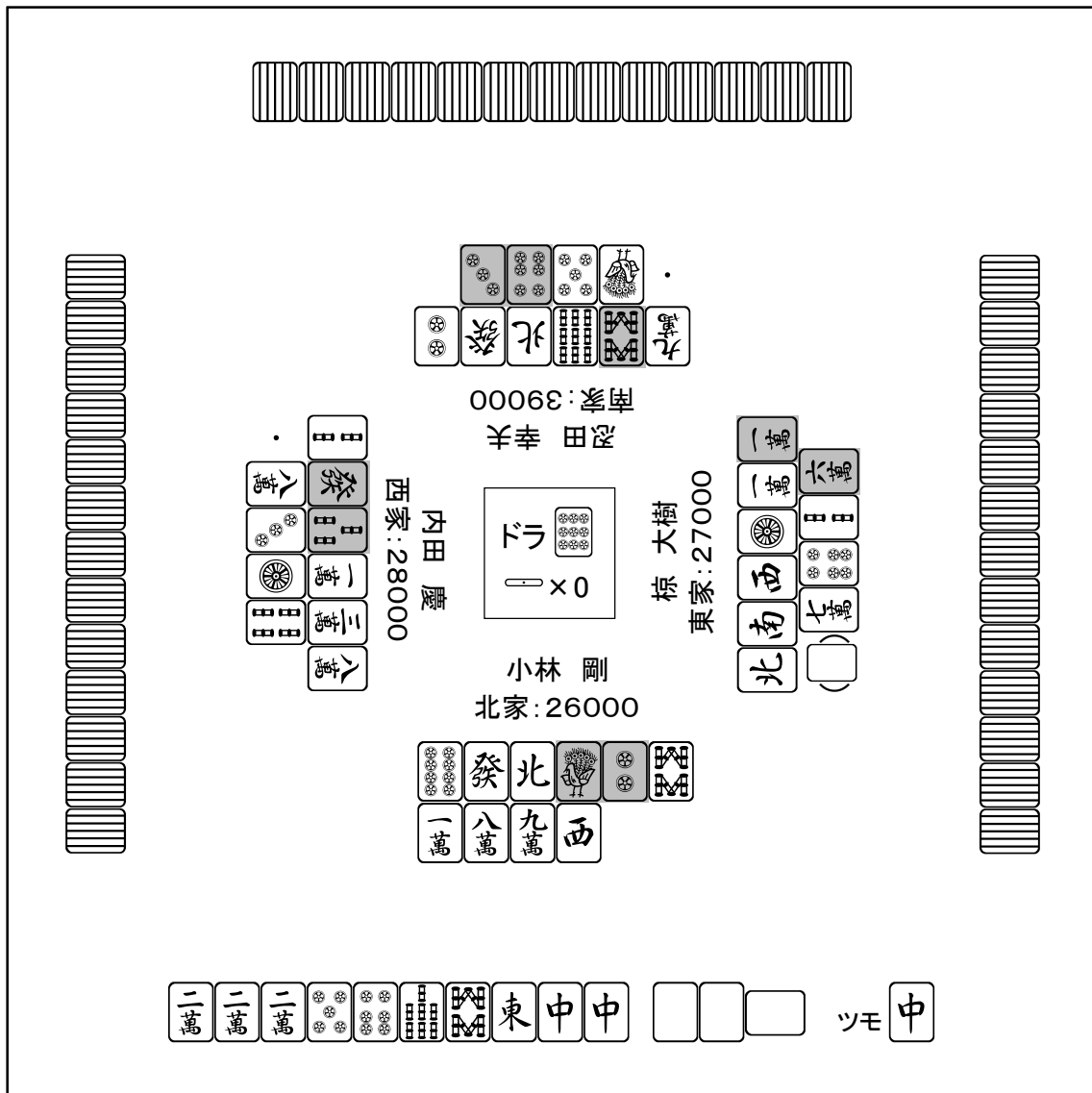
東家の椋は 手出しと、中張牌を3連続で手出ししてきた。読みにくい局面だけに、親としても普通に手を進めているのであろう。

南家の忍田は のツモ切り。下家の内田が怖い捨て牌をしているが、忍田にもそれなりの手が入っているのか、内田がノーテンと読んでいるのか。忍田もまだ攻めて来ていることが分かる。

西家の内田は、さらに の手出し。これが、もし前巡にテンパイしているの変化なら、空切り(カラギリ:ツモってきた を残し、手の内にある を捨てる)か、スライド( や とあるところから、 をツモって と振り替える)というところか。しかし、忍田の 、 が通り、仕掛けもなく、ピンズのカンチャンまで余って、ピンズのホンイツが本当に入っているのかと考えると、やや疑問になってきた。

自分のツモは で、役牌を1種類勝負しなくても良くなり、リャンメン2つのイーシャンテンになった。字牌は西家の内田に切りにくいのが、本当にテンパイが入っているのかやや疑問になったので、 切りで素直にイーシャンテンに取った。

2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝  
東2局その1 11巡目



親の棕は のツモ切り、南家の忍田は のツモ切りと、自分(小林)が前巡に切った で攻めている可能性が高いことが分かるにも関わらず押し返してきている。

そもそも2人ともそれなりの手なのか、それとも西家の内田の手出しからまだテンパイしていないのではないかと考えており、危険牌を1枚くらい押されても「やはり小林も内田をノーテンと読んだか」程度の認識で、自分(小林)も完全にテンパイとは言い切れないと考えているのか。

親の棕、南家の忍田の2人とも、危険牌を切ってはくるが、手牌の推理につながるような情報がない。ただ危険であることくらいしか分からない。

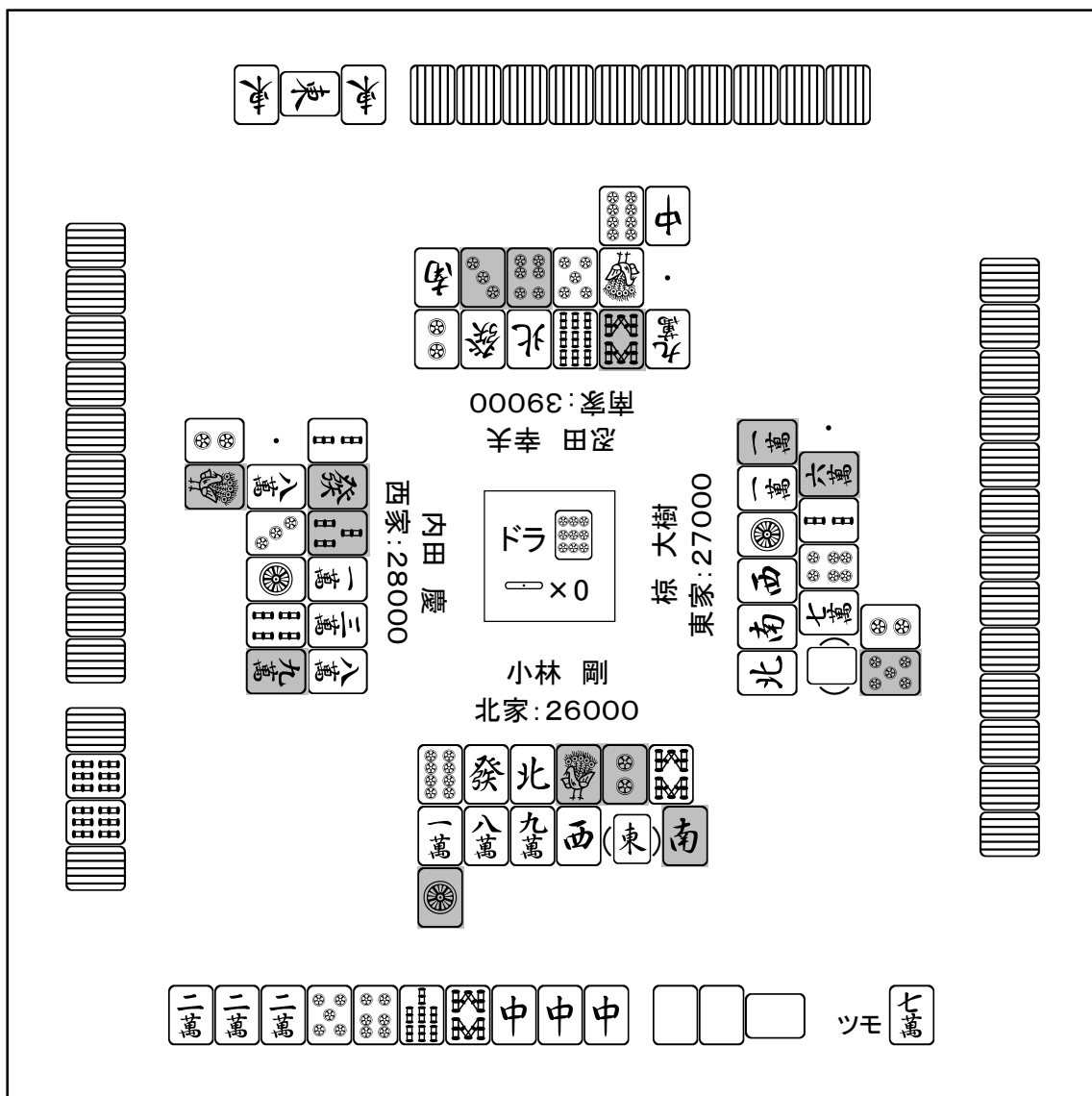
西家の内田が、今度は手出しの 。これでピンズのホンイツの可能性がかなり低くなった。前巡までのカン を嫌った際の偶然の手残りか、手牌に関係しているなら、 や が既に切られているので、空切りか、 へのスライド、暗刻からの1枚外しなどか。

自分はツモ で も暗刻になり、手広いイーシャンテンの手牌になった。西家内田のホンイツの可能性もかなり減ったところなので、 切りで目一杯に構える。





# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 14巡目



東家の槓は の手出し。この が4枚目で、しかも槓自身が既に と と切っているため、おそらく単独で持っていた可能性が高い。内田に対して切りにくく抑えていたが、11巡目の からホンイツではなさそうと判断して切る準備をしつつ、先に危険度の高い 、 を処理し、今ようやく切ることができたということか。

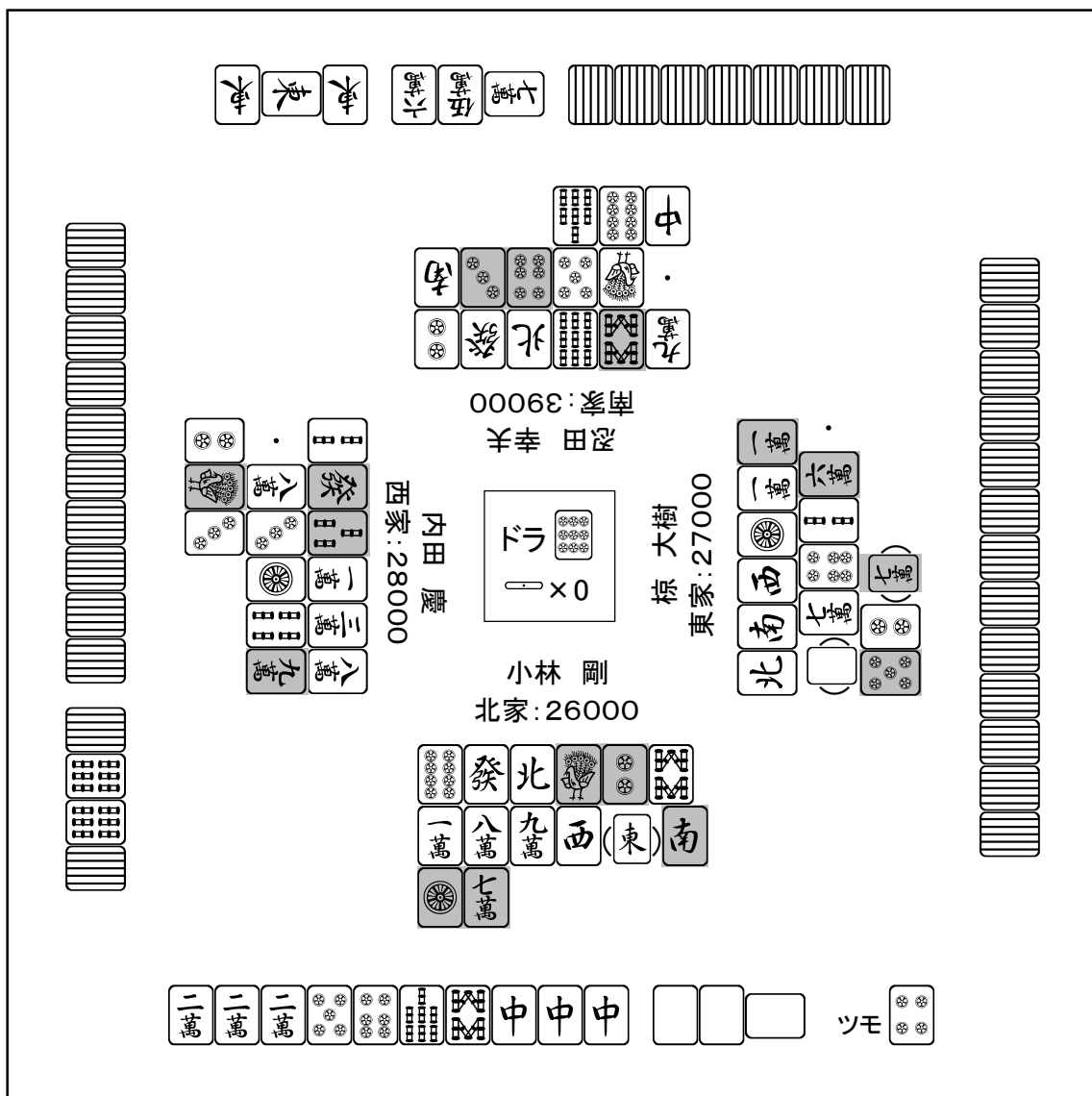
南家の忍田がドラ表示牌の を手出し。既に と切っているため、ドラの が重なった ( に、ツモ で 切り)か、ドラ単騎になった可能性が高い。


西家の内田が のアンカン。前巡の でオリたのかも思ったが、まだ攻めているのか。もしくはオリているが、手詰まりしたためアンカンして安全牌引きを期待したか。リンシャンから安全牌の を引いてツモ切り。





自分はツモ 。忍田に無スジで怖いところ。さらに もアンカンされてしまったので、 を切るかと思ったが、小林はツモ切りで広いイーシャンテンのままに構えた。これは、 の手出しから忍田の手をドラ単騎か、ドラシャンポンの可能性が高いと読んだためであろう。















# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 15巡目



東家の桐が、合わせ打ちになる  をツモ切り。

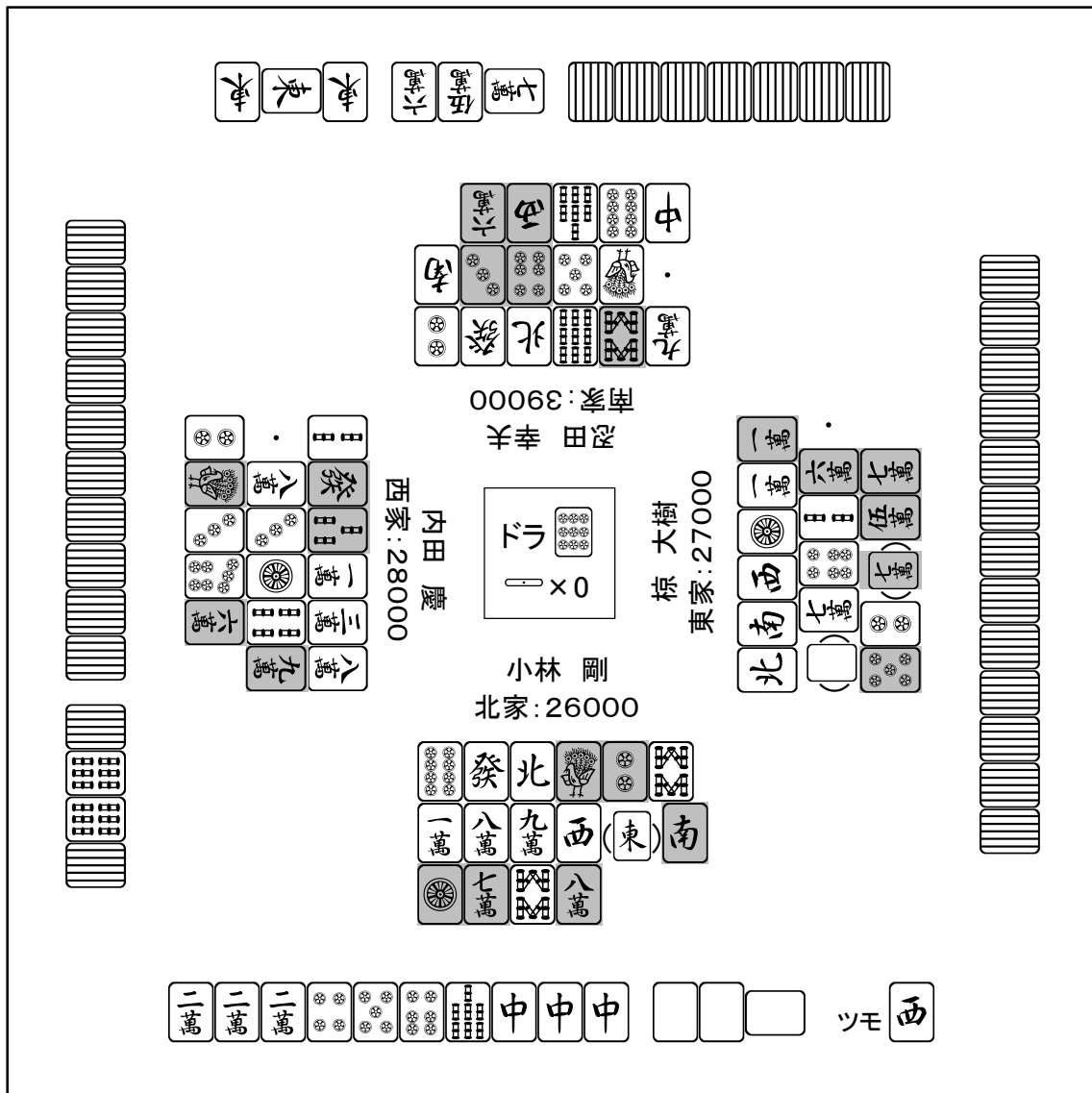
これを南家の忍田がリャンメンでチー。ここでようやくテンパイであったか。忍田の打牌は 。これは、 が4枚とも見えていること、 を早くに切り出していることから、北家の小林に対して切りにくく、単独で持っていた牌の可能性が高い。テンパイしたら勝負しようと思っていたが、内田の  カンのおかげで切りやすくなったということであろう。


西家の内田は  手出し。忍田に対して安全で、下家の小林に対しても  ポンの後に切った9巡目の  を鳴かれていないので、比較的 safety 牌。やはりオリているのであろうか。





自分のツモは  で、ようやくテンパイが入った。 待ちにして  を狙う手もあるが、 が4枚見えているので、ここは単騎待ちに受ける。既に自分で  を捨てているので、まずは  単騎。こうして単騎待ちにしておけば、 もほぼ安全なので、危険牌を引いてもさらにテンパイのまま回ることができる。さらに、この  が南家の忍田からたった今切られたところなので、合わせ打ちで出てくる可能性もある。







# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 17巡目







東家の桐は  のツモ切り。これは南家忍田、西家内田に当たる可能性もあるが、テンパイならこのくらい切っても不思議ではない。

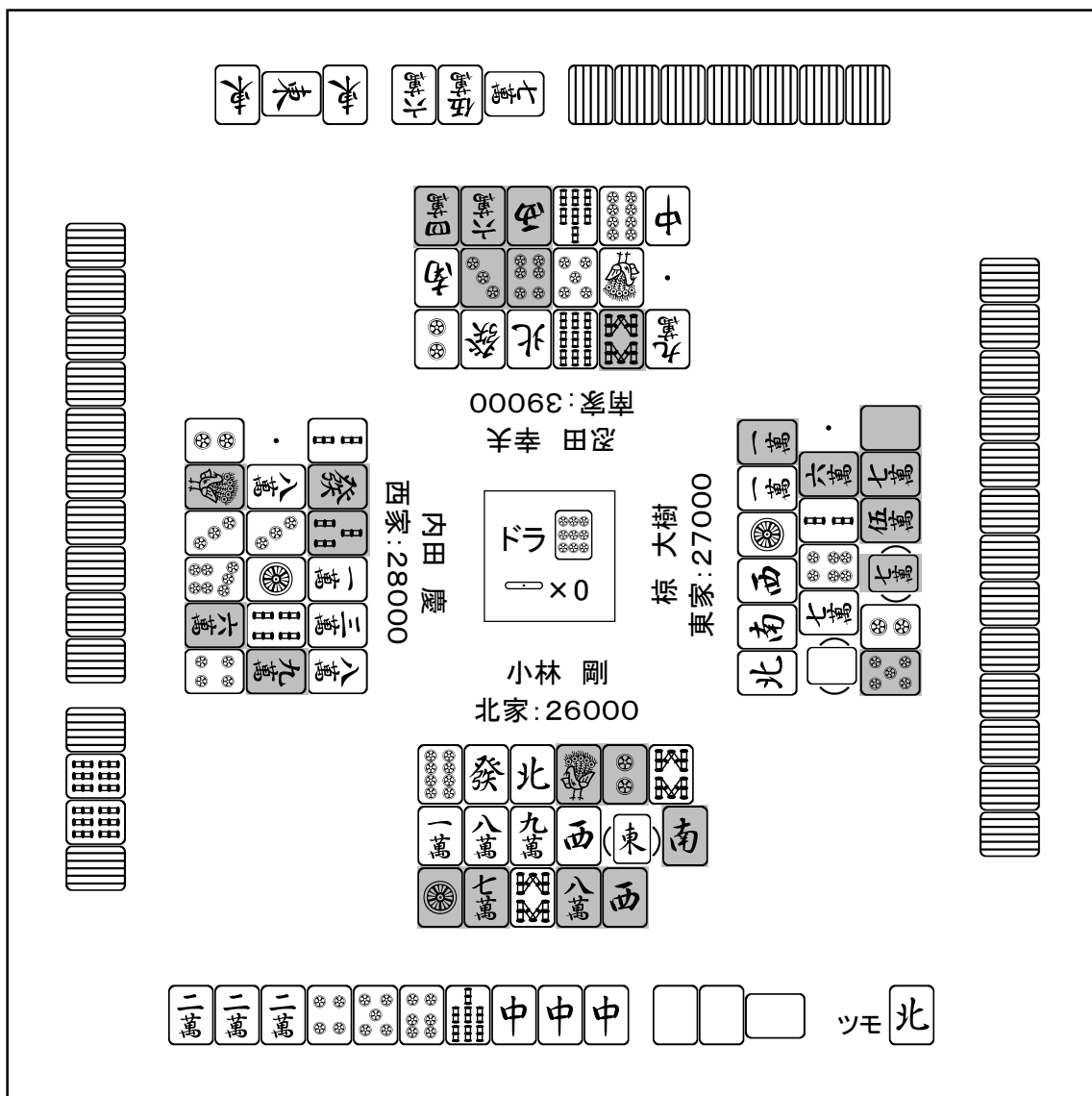
南家の忍田の  も、小林には当たる可能性がある。桐が11巡目に  を切った後、 の手出しがあったため手替わりしているためである。しかし、小林の  手出しがオリたものかも知れないため、テンパイならやはり切ってもおかしくないところ。

西家の内田も、今忍田から出たばかりの  ツモ切り。これで  が4枚見え。とはいえ、 より上の数のマンズは全て通っているため、特に情報にはならなかったが。

自分はツモ 。これは既に3枚切れなので当然ツモ切り。

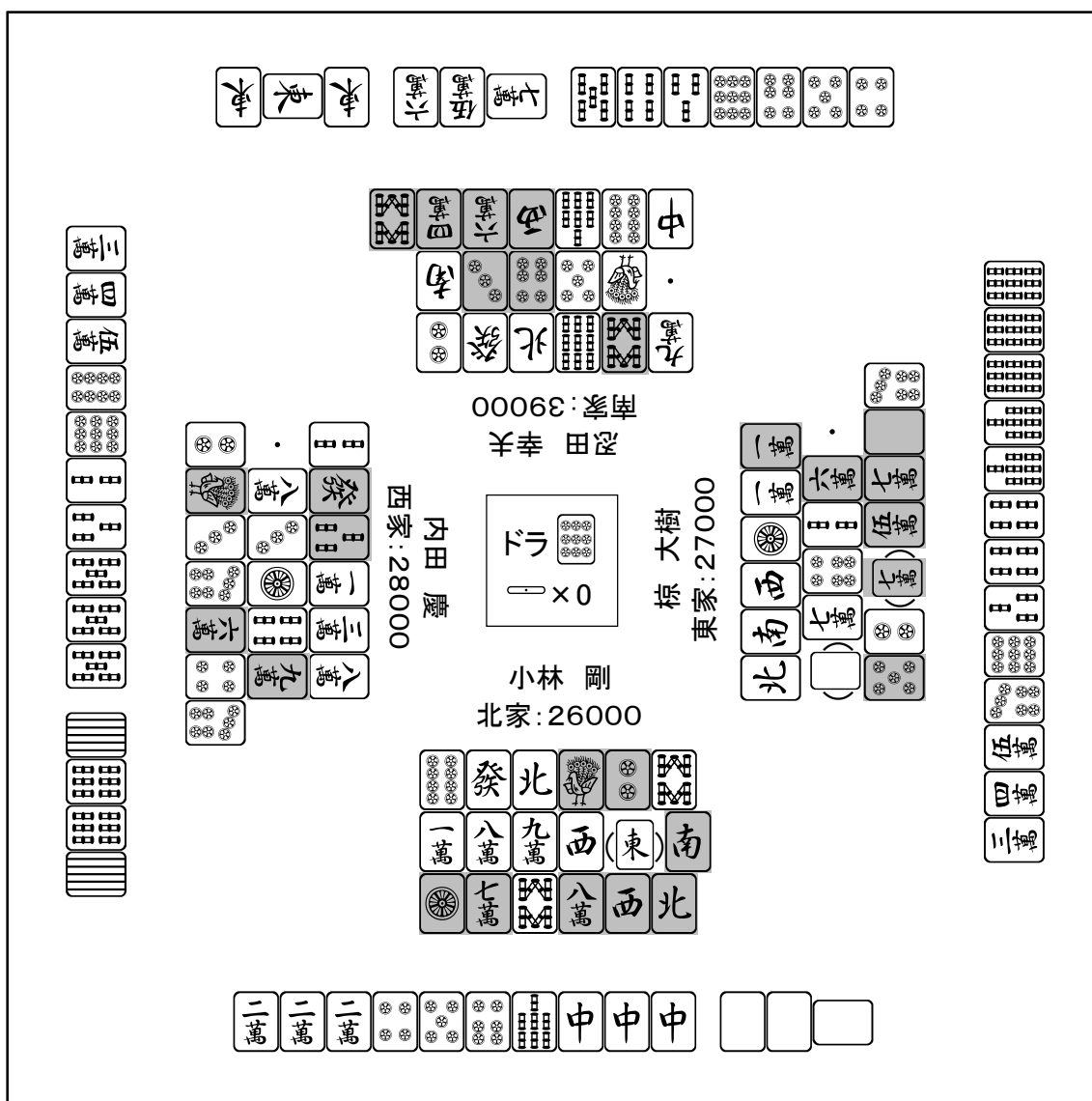
南家の忍田に対し  は切れるため、危険牌を引いても  切りで受けながらテンパイを組めるかと思っていたが、ここに来て東家の桐、西家の内田ともテンパイが入っていそうになってきている。そうすると、 がアンカンされているのに、 が出ていないのがやや不気味である。


2012-01 μカップ in アルバスタジオ 決勝  
東2局その1 18巡目




東家の椋は、ポンされていて安全な  のツモ切り。相変わらずテンパイでもおかしくない。  
 南家の忍田は  のツモ切り。生牌だが全員に  が通り、かつ親の椋が前巡通した  のスジなので、これもテンパイならば切ってもおかしくないくらいの危険度であろう。  
 西家の内田は、やはり生牌の  を手出ししてきたが、これも  がノーチャンス(4枚見えている)かつ、2巡前に  を通して以降、誰も手替わりしていないので、スジになっている。当たらないとは言えないが、これもテンパイならば押してもおかしくないくらいの危険度であろう。  
 対して、北家の小林だが、自分はもうアガりにくく、しかも全員テンパイしていても不思議でない局面だけに、危険牌をツモってくるのが怖いので、この  をチーして、手の内の  を切る手もある(現物食い替えあり)。こうすることで、自分の最後のツモを放棄してテンパイを維持できる。しかし、この局に関しては、現状西家の内田がハイテイのため、チーをするともう一度自分にツモが回ってきてしまうので意味がないのだが。  
 ツモった牌は、場に3枚切れの安全牌 。これをツモ切り無事テンパイ維持。

# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝 東2局その1 最終形



あとは仕掛けが入らなければ自分のツモ番は回ってこないで、 が出アガリできるかどうかのみの勝負となった。

しかし、東家の桐、西家の内田が、最終巡目にほぼ安全牌の  の手出し(内田が16巡目に切ってから誰にも手替わりがない)。最後に危険牌を引いてテンパイを崩したか、ずっとイーシャンテンであったか。

南家の忍田もツモ切りで、流局して、忍田との2人テンパイとなった。全員テンパイでもおかしくないところから、2人テンパイにでき、ノーテン罰符のおかげで2着目に浮上。

しかも、親の桐がノーテンにしてくれたおかげで、1局進めることができた。

まだ僅差なので、2着目とはいえ全然安全とは言えないが、とりあえずラスを脱出できたことは嬉しいところ。

トータルで一番差がある忍田が、この半荘のトップ目。しかも、ポイント的に近い内田・桐よりもこの半荘で上の着順になっているため、小林はまだ優位を保っている。

2012-01 ミューカップinアルバンスタジオ決勝戦

No. 2

東2局 その1

ドラ

○ × ●

東家・椋大樹

配牌 (一萬 三萬 七萬 九萬 南 西 北)

ツモ (四萬 伍萬 六萬 七萬 八萬 九萬)

捨牌 (北 南 西 一萬 一萬 七萬 六萬)

最終形 (三萬 四萬 伍萬 六萬 七萬 八萬 九萬)

27,000  
▲ 1,500

25,500

南家・忍田幸夫

配牌 (伍萬 九萬 東 東 南 北 發 中)

ツモ (六萬 東)

捨牌 (九萬 北 發 南 中)

最終形 (伍萬 六萬 東 東)

39,000  
+ 1,500

40,500

西家・内田慶

配牌 (一萬 三萬 八萬 八萬 南 西 北)

ツモ (三萬 伍萬 四萬)

捨牌 (發 一萬 三萬 八萬 八萬 九萬 九萬)

最終形 (三萬 四萬 伍萬 六萬 七萬 八萬 九萬)

28,000  
▲ 1,500

26,500

北家・小林剛

配牌 (一萬 二萬 八萬 九萬 東 北 發 中)

ツモ (二萬 西 中 中)

捨牌 (發 北 一萬 八萬 九萬 西 東 南)

最終形 (二萬 二萬 二萬 中 中 中)

26,000  
+ 1,500

27,500

2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝  
東2局その1 東家進行

1巡目	一萬 三萬 七萬 東 南 西 北	打 北
2巡目	一萬 三萬 七萬 東 南 西	ツモ 南 打 南
3巡目	一萬 三萬 七萬 東 西	ツモ 西 打 西
4巡目	一萬 三萬 七萬 東	ツモ 四萬 打 東
5巡目	一萬 三萬 四萬 七萬 東	ツモ 一萬 打 一萬
6巡目	三萬 四萬 七萬 東	ツモ 一萬 ツモ切り
7巡目	三萬 四萬 七萬 東	ツモ 伍萬 打
8巡目	三萬 四萬 伍萬 七萬 東	ツモ 七萬 打 七萬
9巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 打 七萬
10巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 六萬 打 一萬
11巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 六萬 ツモ切り
12巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ポン抜け
13巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 ツモ切り
14巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 打 七萬
15巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 ツモ切り
16巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 伍萬 ツモ切り
17巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 ツモ切り
18巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ ツモ切り
19巡目	三萬 四萬 伍萬 東	ツモ 七萬 打 七萬
最終形	三萬 四萬 伍萬 東	

2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝  
東2局その1 南家進行

1巡目	伍萬 九萬	東 東 南 北 發 中	ツモ	打 九萬
2巡目	伍萬	東 東 南 北 發 中	ツモ	ツモ切り
3巡目	伍萬	東 東 南 北 發 中	ツモ	打
4巡目	伍萬	東 東 南 北 發 中	ツモ	打 北
5巡目	伍萬	東 東 南 發 中	ツモ	打 發
6巡目	伍萬	東 東 南 中	ツモ	打 六萬
7巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ポン	抜け
8巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ツモ	打
9巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ツモ	打
10巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ツモ	ツモ切り
11巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ツモ	ツモ切り
12巡目	伍萬 六萬	東 東 南 中	ポン	東 打 南
13巡目	伍萬 六萬	中 東 東	ツモ	打 中
14巡目	伍萬 六萬	東 東	ツモ	打
15巡目	伍萬 六萬	東 東	チー	七萬 打
16巡目	七牌 伍萬 六萬	東 東	ツモ	西 ツモ切り
17巡目	七牌 伍萬 六萬	東 東	ツモ	六萬 ツモ切り
18巡目	七牌 伍萬 六萬	東 東	ツモ	四萬 ツモ切り
19巡目	七牌 伍萬 六萬	東 東	ツモ	ツモ切り
最終形	七牌 伍萬 六萬	東 東		



# 2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝

## 東2局その1 西家進行

1 巡目		ツモ		打	
2 巡目		ツモ		ツモ切り	
3 巡目		ツモ		ツモ切り	
4 巡目		ツモ		打	
5 巡目		ツモ		打	
6 巡目		ツモ		打	
7 巡目		ポン抜け			
8 巡目		ツモ		打	
9 巡目		ツモ		打	
10 巡目		ツモ		打	
11 巡目		ツモ		打	
12 巡目		ツモ		ツモ切り	
13 巡目		ツモ		打	
14 巡目		ツモ		カン	
(同)		ツモ		ツモ切り	
15 巡目		ツモ		打	
16 巡目		ツモ		打	
17 巡目		ツモ		ツモ切り	
18 巡目		ツモ		打	
19 巡目		ツモ		打	
最終形					

2012-01 μカップ in アルバンススタジオ 決勝  
東2局その1 北家進行

1巡目	一萬	二萬	八萬	九萬			東	北			發	中	ツモ	二萬	打			
2巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東	北			發	中	ツモ		打	發	
3巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東	北			中		ツモ		打	北	
4巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東				中		ツモ		ツモ切り		
5巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東				中		ツモ		ツモ切り		
6巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東				中		ツモ		打		
7巡目	一萬	二萬	二萬	八萬	九萬			東				中		ポン		打	一萬	
8巡目	二萬	二萬	八萬	九萬				東	中					ツモ	二萬	打	八萬	
9巡目	二萬	二萬	二萬	九萬				東	中					ツモ	西	打	九萬	
10巡目	二萬	二萬	二萬					東	西	中					ツモ	中	打	西
11巡目	二萬	二萬	二萬					東	中	中					ツモ	中	打	東
12巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ	南	ツモ切り	
13巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ		ツモ切り	
14巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ	七萬	ツモ切り	
15巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ		打	
16巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ	八萬	ツモ切り	
17巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ	西	ツモ切り	
18巡目	二萬	二萬	二萬					中	中	中					ツモ	北	ツモ切り	
最終形	二萬	二萬	二萬					中	中	中								